



令和6年6月27日

メディア関係者・プラットフォーム事業者各位

令和6年7月18日(木) 13時30分～14時30分 オンライン開催

第7回 自殺報道のあり方を考える勉強会 ～基礎から分かる！ 報道で「すべきこと」とは～

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター（東京都千代田区、代表理事・清水康之、略称「JSCP」）は令和6年7月18日（木）、自殺報道に関する勉強会を開催致します。過去6回の開催はいずれも好評で、平日開催へのご要望を多くいただいたことから、今回初めて平日の日中に開催致します。自殺について安全に報じるために必要な「基礎知識」を、1時間に凝縮してお届けします。

本勉強会にご参加いただくと、以下の情報がまとめて得られます。

1. 自殺に関する基礎知識 ー日本の自殺の概況
2. データで解説 近年の自殺報道の影響 ー「ウェルテル効果」(*)は、いつ起きたのか
3. ウェルテル効果を防ぐために ーWHO ガイドライン「すべきこと」「してはいけないこと」
4. 自殺の「手段」等は、なぜ詳報してはいけないのか？ ー国内外の研究・事例から
5. よくある質問・質疑応答

(*) 自殺がセンセーショナルに報じられた後に自殺者数が増える現象は、「ウェルテル効果」と呼ばれ、世界各国の多数の研究で実証されてきました。世界保健機関 (WHO) は、「ウェルテル効果」を防ぐためにメディア関係者が「すべきこと」「してはいけないこと」をまとめたガイドライン「[自殺予防を推進するためにメディア関係者に知ってもらいたい基礎知識 2023年版](#)」を発行しています。

なお今回の勉強会は、過去6回の「自殺報道のあり方を考える勉強会」の要点を凝縮してお伝えするため、過去の勉強会の内容と重複する部分があります。あらかじめご了承の上、お申し込みをお願い致します。

今回は、以下のような方々に特に適した内容となっております。

- ◇自殺報道について、基礎から最新の動向まで短時間で知りたい (あるいは、おさらいしたい)
- ◇最新の WHO ガイドライン (2023年版) の概要を知りたい
- ◇新人研修や部門研修の一環として
- ◇人事異動などで、自殺報道への配慮が必要なポジションに新たに就いた

皆様のご参加を、お待ちしております。

- 日 時： 令和6年7月18日(木) 13時30分～14時30分
- 対 象： メディア関係者、プラットフォーム事業者等
- 形 式： オンライン (Zoomウェビナー)
- 参加費： 無料
- 申し込み： 下記 URL または右記 QR コードから

<https://forms.office.com/r/UPVc4Su7bU> (7月16日(火) 17時締め切り)



過去の勉強会に、ご参加いただいた方々の声

「これまでに全国紙・地方紙・キー局等、全国から 159 社のメディア/プラットフォーマーらが参加」

- 報道に携わる者は知っておかなければならない、考えなければならぬことだと思った。日曜日であれば、必須として他の社員にも聞かせたかったと思った。(ラジオ局、部長)
- 特に自殺と報道に関する具体的研究実績が、説得力があり、今後の報道の上で大変参考になった。(テレビ局、報道部部長)
- 自殺報道が自殺念慮を持つ方々に影響を与えることを改めて確認できた。(新聞、デスク)
- 自殺報道を巡る最新の知見に触れることができた。(新聞、記者)
- 一般論としては、読者の知りたいことを伝えるのが報道だと思っているが、自殺報道の場合は「いつ、どこで、なぜ」という、一部読者が熱烈に知りたいことが「報じるべきでないこと」となると知った。編集局内で、勉強会の内容・認識を共有したい。(新聞、デスク)
- 記事を作成する上で参考になる点が多々あった。(雑誌、編集長)
- 自殺報道は神経を遣うことが多いが、連鎖を引き起こす可能性がある。今後は、そうした配慮にさらに意識的に取り組む必要があると改めて認識できた。(テレビ局、社長室)
- 紹介された事例やデータから、著名人の自殺報道が持つ「自殺を誘発する力」が、これまで考えていた以上に直接的かつ強力に働いていることが理解できた。(ネットメディア、副編集長)
- 初めて知る知識が多かったので、第一歩として勉強になった。(ラジオ・テレビ局、アナウンサー)
- ガイドラインを意識しながら、自主自律の放送としての使命とのはざままで、どうバランスをとっていかかが今後の課題だと感じた。(テレビ局、考査部長)

以上

過去6回の「自殺報道のあり方を考える勉強会」の詳細レポートは、下記よりお読みいただけます。

<https://jscp.or.jp/training/detail/benkyoukai-matome.html>